

とやま

県広報とやま

2002

12月号

No.397

富山県

特集 とやま発元気企業を応援

クローズアップ 地産地消 ～とやまの食をいただきます！～



旗や小道具を使った華やかな演技で、カラーガードの魅力を広めるカラーガードチーム「PEZ(ベッツ)」の皆さん。最後列右が代表の薄島さん。

10月

9日

**粘り強い富山県人気質で
世界が驚く大発見**
県出身の田中耕一さんが
ノーベル化学賞を受賞



県人初のノーベル賞受賞が決まった田中耕一さん

今年のノーベル化学賞に、県出身の田中耕一さんが選ばれました。戦後生まれ、企業研究者としてのノーベル賞受賞はいずれも日本初。しかも現在四十三歳の若さに日本中が湧きかえりました。

田中さんは昭和三十四年富山市の生まれで、八人町小、芝園中、富山中部高校を経て東北大学へ進学。卒業後、京都の島津製作所に入社し、企業研究者としてたんぱく質の質量や構造解析などに携わってききました。

受賞のきっかけとなったのは、さまざまなたんぱく質の質量を測る「ソフトウェア脱着法」という手法。これは、人間の生命活動の基本となるたんぱく質についてその種類を素早くかつ正確に解析するもので、この画期的な技術は世界のたんぱく質研究を一気に加速させました。今後はさらにがん研究や新薬開発など医療分野での応用が期待されています。

現在京都市に住む田中さんは、十月十三日に開催された京都県人会総会に出席。近畿地方在住の県出身者約七百人から祝福を受けました。お祝いに駆けつけた中沖知事から花束を受け取った田中さんは、「富山県人ということに粘り強さが受賞につながる大きな要因だった」と振り返りました。



京都県人会総会に出席した田中さん

十月十九日には、受賞決定後初めて富山へ帰郷。中沖知事らとの懇談では、「新薬開発につながる研究での受賞は『薬の富山県』としても嬉しい」との言葉に「知識を生かして人と人をつなげ、できれば産学官の研究連携などに仕事の幅を広げていきたい」と応えた田中さん。記者会見では「受賞が県民みなさんを勇気づけたようで嬉しい」と喜びを語りました。



実家前であたたかく迎えらるる田中さん

また、県人初の快挙に、「R富山駅や実家前には多くの人々が詰めかけました。熱烈な歓迎を受けた田中さんは、待ち受けた人の数に驚きながらも、お祝いの声に笑顔で応えていました。」

県では、今後成長が期待される分野としてバイオ産業の育成に力を入れていますが、今回の受賞はその弾みとなるもの。県では、新たに創設する「名誉県民」の称号を贈り、その榮譽を称えることとしています。

問合せ

県庁総合政策課

☎ 076(444)9605

11月
7~17日

全国の伝統芸能が富山に集合
いきいき富山伝統芸能フェスタ

十一月七日から十七日まで、全国の伝統芸能を一堂に集めた「いきいき富山伝統芸能フェスタ」が開催されました。

古くから東西の文化や経済の交流の地であった富山に、県内外から三十の芸能団体が集合。高円宮同妃両殿下をお迎えした開催記念公演では、越中おわらやむぎやなど富山

を代表する郷土芸能のほか、やまがらう山鹿灯籠まつり(熊本)など県外からの特色あふれる伝統芸能が披露されました。



やまがらう山鹿灯籠まつり(熊本)
灯ろうを頭に載せた女性が優雅に舞う

県では同フェスタの開催を契機として、地域伝統芸能を活用した観光や地域商工業の振興を図り、富山県の魅力をさらに県内外に発信していくこととしています。

問合せ

県庁観光課

☎ 076(444)8784

高円宮憲仁親王殿下には、十一月二十一日に薨去(じゆうこ)されました。謹んで哀悼(いただく)の意を祈り申しあげます。

地産地消

～とやまの食をいただきます！～

「地産地消」とは、「地場生産、地場消費」を略した言葉で、地元でとれた食材を地元で消費するという意味で使われています。近年、消費者の食料に対する安全志向の高まりを受けて、消費者と生産者の相互理解を深める取り組みとして期待されています。



とやま地産地消推進会議の発足

食品の流通網の発達により、国内はもとより、世界中の食べ物を簡単に入手することができるようで、最近では、牛海綿状脳症(BSE)の問題など食の安全性をおびやかす出来事が多く起こっています。

こうしたなか、本県では、高山でとれた新鮮で安全な食材を、県民の皆さんに安心して食べてほしいとの思いから、今年五月に生産者、消費者、食品関係業界、医師、栄養士などで構成されるとやま地産地消推進会議が発足しました。この会議では、「地産地消」の運動を幅広く展開し、安全、安心な食材の生産拡大と生産者の顔の見える流通販売による健全な食生活の実現、地域の食文化の伝承と創造、次代を担う子どもたちへの食に関する教育の推進などを目標としています。

とやま地産地消推進の柱

ホームページや情報誌を活用した情報提供などにより、多彩な食材と高山ならではの食文化の魅力を伝えます。

地場産品の直売所やスーパーの食料品売り場での地場産品コーナーの設置などにより、地場産食材の流通販売を促進します。

健全な食生活を推進していくため、研修会などにより、「食生活指針」の普及啓発に努めるとともに、学校給食への地場産食材の導入を促進します。

地産地消の取り組み事例

学校給食で地元の味を満喫

給食のメニューに地元の食材を用いる学校が増えてきています。子どもたちからは、「地元でとれた食べ物なので、親しみがわいた」、「自分の近くのいろいろなものが作られているのがわかった」といった声があがっています。



地元の食材を使った給食をおいしそうに食べる子どもたち。

地産地消の取り組み事例

新鮮なおいしさを県内各地で発見

県内には、地元でとれる食材で農産加工品を作っている所や、採れたての野菜などを売っている直売市が多くあります。

大かぶの漬物を生産している農事組合法人音川加工の皆さん

地域で好評だった大かぶの漬物を昭和六十一年に商品化。年々注文が増え、現在は、年間約三万袋を生産している。



代表者 谷井 はま子さん(前列右端) 商品化までは苦労しましたが、今では多くの方に他では味わえないおいしい音川の大かぶを食べてもらっています。大かぶにより、音川の名前が有名になり、地域の活性化につながってほしいですね。

県では、農村女性による農産加工品や直売市の情報を紹介した「農村女性起業マップ」を作成したり、朝市・夕市情報をホームページに掲載したりするなど、

顔の見える食材の流通を支援しています。



農産加工品や直売市の問合せ
県庁技術推進課

☎ 076(444)3277

http://www.pref.toyama.jp/secti-
ons/1612/1612.htm

県では今後も県内の生産者、消費者、食品関係業界の関係者などと連携し、地元の食材や食文化の情報を共有しながら、地産地消の取り組みを進めていきます。

「いただきます!」を「富山」を「富山」を

「地産地消」の気運を盛り上げ、県民総ぐるみの運動にするため、皆さんも県産の食材を応援してみませんか。ご希望の方は、県庁農林水産企画課まで電話、電子メールで「応募」ください。

参加資格 県内に住所を有するが、勤務(在学)している十八歳以上の個人、もしくは、県内に事業所のある会社や団体

特典 富山で生産される食材の早期情報の提供
朝市夕市などの直売情報の提供
富山の食に関するイベントや講習会などの案内

問合せ 県庁農林水産企画課

☎ 076(444)3368

e-mail norinsuisan5@pref.toyama.lg.jp



「自然食」の会社をはじめました

(有)食養の杜とやま
(立山町)
松村文子さん

松村さんは、勤めを定年退職後、雑穀を取り入れた弁当の製造・販売会社を創業。「長い間培ってきた食生活改善のノウハウを生かしたかったんです。生涯現役ですよ。」地元産の無農薬野菜、素材本来のうまみを生かす調理法などで、健康を求める消費者ニーズにこたえている。

起業にあたっては県新世紀産業機構に相談、さまざまな支援を受けた。「手探りの中で、製品開発の助成がありがたかったですね」。大型の調理器具には小規模企業者等設備導入資金を利用、マーケティングの支援も受けている。

会社で働くのは地元の女性たち。「地域社会に貢献できる会社を目指したいんです。地域の人、弁当を食べてくれる人、みなさんが元気になってくれたらうれしいよ。」



キビやアワなど雑穀と五分づき米のおにぎり



廃棄植物の繊維を原料にした容器

サトウキビのしぼりかす、茶しぶ、コーヒー豆のかすなど、メーカーが廃棄に困っている廃棄植物を原料にしたもので、使用後の廃棄時には分解して土に還るスグレモノ。開発した石崎産業(株)(魚津市)では県の補助金を活用したほか、県新世紀産業機構が商品化を支援。

酸化チタン膜ポリカーボネート

立山ロープウエーの窓などに用いられるポリカーボネートを曇りにくくした。写真では処理のしていない左側の窓に比べ、中央の窓は水滴がついておらず、いつでも眺望が楽しめる。(株)タカギセイコー(高岡市)と県工業技術センターの共同開発。



金属缶代替の段ボール製容器

液体容器としても利用可能な段ボール製容器を開発。軽量でリサイクルも可能、非使用時には折り畳めるなど汎用性が高い。開発したジャパンバック(株)(滑川市)では、県の補助金を活用したほか、県新世紀産業機構、県工業技術センターが商品化を支援。



深層水利活用商品

富栄養性や清浄性といった特長を持ち、水産分野を中心に利用されてきた深層水。大手ビールメーカーの発泡酒で使用されるなど、非水産分野でも幅広く利用されている。県では、深層水のさまざまな利活用を支援。



シースルー盾

軽量で視野が確保でき、弾丸も貫通させない強度も併せ持つポリカーボネート製盾。サッカーワールドカップの警備用として採用され、2002年度グッドデザイン賞特別賞(中小企業庁長官賞)を受賞した。(有)ナンワ(高岡市)が開発し、県総合デザインセンターが商品化を支援。



バイオセンサー 作成装置

がんや肝炎の診断を短時間に行うDNAチップなどのバイオセンサーを、高速・高精度で作成する装置。千分の1ミリ単位での位置決め制御と、1兆分の1リットル単位の液体制御技術によって実現した。(株)スギノマシン(魚津市)が北陸先端科学技術大学院大学と県工業技術センター、県新世紀産業機構の協力で開発。

酵素などの生体反応を情報処理しやすい電気信号等に変換して必要な情報を得る測定機器。



ユニバーサルデザイン コンセントプラグ

軽い力で引く抜くことができるよう工夫されたプラグ。県総合デザインセンターの「ユニバーサルデザインコンテスト」で入賞し、同センターが商品化を支援。



高齢者から子供まで、誰もが使えるよう考慮したデザインのこと

とやま発元気企業を応援

企業研究者として、わが国で初めてノーベル化学賞受賞が決まった田中耕一さん。富山県の粘り強い県民性が受賞の原動力となった、との言葉に勇気づけられた方も多いことでしょう。厳しい経済情勢のなか、県内でも新しい試みに積極的に取り組む企業が生まれています。今回は、県内の元気な企業を応援する施策についてご案内します。

応援「新しい分野の産業に取り組みたい」

産学官が連携した研究開発

県では、平成十三年度からスタートした富山県新世紀計画において「産業立県」を政策の柱の一つに掲げ、県の特色を生かした産業づくりや獨創性あふれる企業の育成に取り組んでいます。

特に、成長が期待できる産業としてIT、バイオ、深層水などを重点項目に位置づけ、様々な支援を行っています。これらの分野では、企業、大学などの高等教育機関、県工業技術センターなど県立試験研究機関の「産学官」が連携した研究開発がなされるなど、新たな時代に対応していく様々な取り組みが行われています。

応援「オリジナルのアイデアを實現したい」

商品化を支援

県内には、優秀な技術や人材を活用して獨創的な商品開発に取り組む元気な企業がたくさんあります。しかし、オリジナルのアイデアを持っていても、十分な開発体制や資金などがないために、せっかくの意欲が實現しないことも少なくありません。

県では、こうした意欲ある企業に対して、市場調査から商品企画・開発、試作品作成、金融支援などソフトからハードまでさまざまな形でサポート。高い付加価値を持った独自の商品開発や、新たな市場の開拓を支援しています。

応援「いろいろな相談をまとめて聞きたい」

(財)富山県新世紀産業機構へ

平成十三年四月に設立された(財)富山県新世紀産業機構では、技術、経営、情報化など企業からの様々な相談を一つの窓口で対応する「ワンストップサービス」を実施。県のさまざまな支援施策を紹介しているほか、県・国の内外にわたるネットワークを駆使し、企業の新事業開発や経営革新、小規模企業の経営安定などをサポートしています。

最近では、ISO認証取得、ホームページの立ち上げなど、中小企業が抱える新しい課題への専門家派企業内の品質管理や環境管理について国際標準化規格(ISO)が定める標準認証。ISO認証取得が取引条件とされるが増えています。

遣や、起業者を育てる「とやまベンチャー起業化スクール」などの人気が高まっています。



十月二十四日、とやまベンチャー起業化スクールの企業見学会が開催され、県内企業三社を訪問。会社員ら二十人が参加し、起業のノウハウや新商品開発のコツなどを学びました。

県では、さまざまな施策を通して、知恵と技術を生かして挑戦する人が育ち、活躍する産業社会づくりを目指していきたいと考えています。

特集についての問合せご意見は
県庁商工企画課
☎076(444)3245

こんなときは県新世紀産業機構にご相談ください

創業したい、新商品・独自技術を事業化したい



創業・経営革新・研究開発支援

インターネットやパソコンを活用したい



情報化支援

環境、省エネルギーに取り組みたい



環境支援

設備を導入したい、仕事を発注・受注したい



資金・設備・取引支援

商店街等を活性化させたい



商業支援

人の育成を図りたい



人材育成支援

問合せ (財)富山県新世紀産業機構
☎076(444)5600
ホームページアドレス <http://www.tonio.or.jp/>

カラーガードチーム「PEZ(ペッツ)」代表

うすじま まさよ
薄島 雅代さん

1972年生まれ 富山市在住

色鮮やかな旗や小道具を使い、音楽に合わせて演技を行うカラーガード。ほとんどがマーチングバンドに属しているなかであって、薄島さんは、6年前にカラーガードだけのチームを結成した。メンバーは、高校生から社会人まで幅広い。仕事と両立させながら、週2回の練習に励んでいる。11月には、マーチングバンド・パトントワリング北陸大会にも出場。多くの人にカラーガードの魅力を知ってほしいと活動に取り組んでいる。



イメージ豊かな演技で 夢は大きくアメリカへ

とやまの
やる気・元気



ピエロのメイクで演技した「アレグリア」。北陸大会では大きな声援が飛んだ。

色彩と動きで観客を魅了

虹のような旗がリズムよく動き、舞い上がる。テーマに合わせた衣装と音楽で、ひとつのストーリーが表現される。

「マーチングは、もう元気よく行進するだけじゃなくなっています。表現力を豊かにするために、ダンスやバレエのレッスンもしますよ」

マーチングバンドでは、「花を添えるカラーガードが「PEN」では主役となって華麗に舞う。カラーガードだけのチームは、全国でも数えるほどしかない。

「バンドの中にあるより自由な表現ができるんです。イメージは限りないですよ」

今年出場したマーチングの北陸大会では、自由を求めるクラウン（ピエロ）を見事に演じ、喝采を浴びた。

本場の演技と技術を求めて

薄島さんは、高校の吹奏楽部でカラーガードに出会った。演奏の片手間だったのが、全国大会でトップレベルの演技を見た時、その魅力にとりつかれた。

『こんなすごいものだったのか！』
『うまくなりたいたいと心底思うようになってきました』

卒業後、勧められて小学生の指導をしていたが、ビデオで見た本場の演技が忘れられず、アメリカ行きを決意。先生の紹介で、まずはカナダのマーチングバンドに入った。『それまで富山から出たこともなかったのに(笑)。言葉も分からないし、本当にぎつかったけど、もっと上を目指したかったです』

翌年にはアメリカの有名なチームに日本人として初めて入団、トップレベルの技術と厳しさを教わった。帰国後、薄島さんの演技はもちろん、指導の方法も変わった。

『前は、『どうしてできないの?』という思いが先にあった。今は、どうしたらできるかを一緒に考えます』

もっともっとと多くの人に

メンバーの職業はさまざま。時には都合で練習に来られない人もい

る。社会人主体のチームならではの苦労もあるが、練習時間の少なさは、チームワークでカバー。「みんなの動きがびたりと合った時がいちばんうれしい」と、メンバーたちは語る。そして、カラーガードをもっと多くの人に知ってほしいという思いを、強く持っている。

『旗を振っているというところなんだそれ?』って言われちゃうんです(笑)。魅力を伝えられる機会がもっともっとほしいですね』

北陸大会でも、今回ようやくカラーガード部門ができた。薄島さんとメンバーは、機会があればイベントなどにも出演している。今後の夢は、PENとしてアメリカの大会に出場すること。どんな状況でも決して音を上げない薄島さんと、個性豊かなメンバーたち。美しくひるがえる旗の向こうに、大きな夢を見つめている。



メンバーの練習をチェックする薄島さん。なお、PEZの活動の様子はホームページでも紹介されている。
<http://www.geocities.co.jp/MusicHall/3463/>

皆さんに郷土の良さを再発見・再認識していただくため、新聞・テレビ・雑誌など、さまざまなメディアで全国で紹介された富山の話題を紹介します。今回は平成14年9月～10月に紹介された話題の中からいくつかを紹介いたします。なお、ここで紹介しきれなかったものは県庁広報課のホームページでご覧になれます。

人と人を結ぶ風の盆

各紙がおわら風の盆を紹介。観光客の「八尾の人々のもてなしに感謝」若者たちの心豊かな人生を確信」といった投書が掲載されたほか、「風の盆」が住民相互の絆となり地域独特の活力を生み出している、と伝えた。

産経新聞・毎日新聞 9月2日、朝日新聞 9月11日
東京新聞 9月16日、日本経済新聞 10月27日



これからの登山はトイレも携帯

山の環境を守るため、登山などに携帯用トイレを持参する動きが広まっていることを紹介。富山県では、来年度から使用済み携帯トイレの回収システムの試験導入を検討していることが取りあげられた。

読売新聞 10月9日



「脱フリーター」を応援

「自分の店を持ちたい」という夢を持つ若者への支援として、富山市中央通り商店街の「フリーポケット」を紹介。空き店舗を1年限定の格安家賃で貸し出すことで、商店街の活性化にもつながっている、と伝えた。

サンデー毎日 9月1日号



全国で見直される佐々成政像

NHK大河ドラマをきっかけに佐々成政の暴君説が改めて見直され、さまざまなイベントを実施した富山から成政復権現象が全国各地に広がっている、と伝えた。また、「さらさら越え」以後、現在に至る立山登山の歴史が紹介された。

ステラ 10月18日号、ロードクラブ 秋号



住所は「蛇喰」「年代」「雨潜」「筏」

珍しい地名の由来をたどり地域を紹介するコーナーで、砺波平野を取りあげた。「じゃばみ」「ねんだい」「あめくぐり」「いかだ」といった地名のほか、散居村の起源や歴史などにふれながら砺波平野の名所を紹介した。

旅 10月号



今後の予定

「燃えろ！祭り本線・東へ西へ
～富山・地域伝統芸能フェスティバル～（仮題）

NHK衛星第2 12月7日(土) 午後4:00～5:00

11月7日から10日まで、富山市オーバードホールで開催された「いきいき富山伝統芸能フェスタ」の様子をお伝えします。



富山県が全国で紹介された情報をお持ちでしたら、ぜひ県庁広報課までお知らせください。

編集部から

平年よりずっと早い初雪も降り、ストーブが恋しい季節になりました。今回取材した企業やグループの皆さん、ノーベル賞の田中さん。編集者を体の内側から熱くしてくれた方々でした。来年も皆さんが暖くなるような記事を心がけますので、どうかご愛読ください。

県広報とやまは、隔月(偶数月)発行で新聞折込により各家庭にお届けします。また、次の場所で無料配布するほか、郵送による購読も受け付けています。

主な配布箇所 / 県庁、県刊行物センター(県民会館1階)、県の各施設、市町村役場、図書館、文化ホール、公共温泉施設、主なショッピングセンター、いきいきKAN(富山駅前CIC5階)、JR駅(一部)、富山空港、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所

定期購読の申込方法 / 郵便番号、住所、氏名、電話番号、購読回数を明記し、郵送料として1回あたり120円分の切手を同封のうえ、県庁広報課「県広報とやま 定期購読係」までお申し込みください。

なお、本号とバックナンバーは、県庁広報課のホームページで閲覧することができます。

とやまの情報お伝えします!【12月の県政番組・お知らせ】

番組タイトルは、いずれも仮題です。

こんにちは富山県です 北日本放送テレビ 毎週日曜 11:00～11:30

- 8日 中小企業の金融円滑化に向けて
- 15日 わがまち自慢～福光町～
- 22日 地域の発展に貢献する県立大学
- 29日 県政この一年

とやまDASH! フォーカス・イン 富山テレビ 毎週日曜 9:00～9:30

- 8日 富山湾の幸よもやま話
- 15日 県内ミュージアムマップ
- 22日 これぞ職人の技
- 29日 年の瀬協奏曲

富山が元気。 富山県民テレビ 毎週日曜 10:00～10:52

見たモン勝ち2 第4日曜

とやま県間録 FMとやま 毎週月曜～木曜 11:30～11:40 毎週土曜 11:30～11:55

新聞広報「県からのお知らせ」
12月14日・28日の朝刊各紙に掲載予定
富山県ホームページ
<http://www.pref.toyama.jp/>

県政クイズ

地元でとれた食材を地元で消費する取り組みを

「地産」と言います。

(を埋めてください。)

答えは2ページを読めばわかります。

応募方法

ハガキに、クイズの答え、郵便番号、住所、氏名、年齢と本誌の感想を記載し、富山県庁広報課「県広報とやま 12月号クイズ係」まで。

締切 / 12月20日(金)(消印有効)

正解者の中から20名の方に、「らいちょうパレースキー場リフト券(10回券)」をペアでプレゼントします。(当選の発表はプレゼントの発送をもってかえさせていただきます。)



県庁広報課への郵便、ご連絡は 〒930-8501(県庁専用郵便番号、住所記入不要) 県庁広報課あて
☎ 076(444)3134 FAX 076(444)3478 e-mail koho@pref.toyama.lg.jp
県庁広報課のホームページは <http://www.pref.toyama.jp/sections/1101/1101.htm>

近代美術館

山本容子の美術遊園地
 【～12/25(水)】
 銅版画家・山本容子の書籍の挿絵や水彩画、和紙を用いたオブジェなど約400点を展示し、遊園地のような美術空間を生み出します。一般900円/高・大650円/小・中450円 常設展示もご覧になれます。



9:30～17:00(入館は16:30まで)
 (休)月曜・祝日の翌日(12/23、24は開館)
 12/26～3/31まで改修工事のため臨時休館
 常設展示観覧料 一般200円 高・大160円 小・中100円



水墨美術館

初めての挑戦「子どもたちの墨画」
 ～水墨画ワークショップの作品から～併設展「さまざまな水墨画 - 収蔵作品から -」
 【～1/13(月・祝)】無料
 初めての水墨画に臆することなく、のびのびと自由奔放に描かれた子どもたちの作品を紹介します。また、収蔵作品も併せて展示します。



9:30～17:00(入館は16:30まで)
 (休)月曜・祝日の翌日(1/13は開館)
 12/20～1/4
 常設展示観覧料 一般200円 高・大160円 小・中100円



中央植物園

企画展「干支になんだ植物展」
 【12/13(金)～1/15(水)】
 今年と来年の干支である「うま」と「ひつじ」に
 関係のある植物を実物とパネルで紹介いたします。



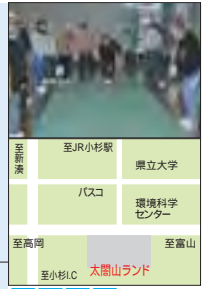
写真展「植物の造形美」
 【1/17(金)～2/5(水)】
 植物に見られる造形的な美しさを写真パネルで紹介いたします。
 いずれも入園料が必要です。

9:00～16:30(入園は16:00まで)
 (休)木曜、12/28～1/4
 入園料 一般600円 小・中300円



県民公園太閤山ランド

左義長まつり
 【1/13(月・祝) 10:30～15:00】
 お年玉福引(対象/幼児、小学生)500名
 おしるこサービス 1,000名



県室内ペタンク太閤山ランド大会
 【1/25(土) 9:30～15:00】
 ニュースポーツ・ペタンクの大会を行います。
 定員96チーム(1チーム3人) 要申込 1/5まで
 参加料1,000円(1チーム) うちばき持参
 申込先 県ペタンク連盟 ☎0765(74)0011

9:00～17:00 (休)火曜・祝日の翌日、12/29～1/3
 入園無料(駐車料金は3/31まで無料)



立山カルデラ砂防博物館

ザ・避難
 【～12/23(月・祝)】無料
 自然災害の恐ろしさと防災意識の大切さを過去の出来事から学びます。



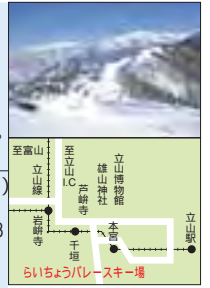
生物教育写真展「自然から学ぶ」
 【1/7(火)～1/19(日)】無料
 生物教育に関わる方々が日々感じた自然の素晴らしさを撮影した写真を展示します。

9:00～17:00(入館は16:30まで)
 (休)月曜・祝日の翌日(12/23、1/13は開館) 12/28～1/4
 一般400円 高・大320円 小・中200円



らいちょうパレースキー場

スキー場オープン
 【12/15(日)～】



立山山麓オープニングフェスティバル
 【12/21(土) 11:00～11:45】
 ピンゴゲームや山麓鍋などの無料サービスを行います。
 リフト・ゴンドラの利用が1日無料になります。

8:30～16:30(土、日、祝日、12/29～1/3は8:00から)
 ナイター営業 17:00～21:00)
 3月上旬までの毎週金・日、祝日の前日、祝日、12/29～1/3
 1日券 中学生以上4,200円 小学生以下2,700円
 半日券 " 3,000円 " 1,900円
 ナイター券 " 2,300円 " 1,500円



呉羽少年自然の家

呉羽冬の集い
冬の森探検とわらざり作り
 【1/25(土)～26(日)】1泊2日
 いろいろな雪遊びや冬の自然観察、わらざり作りなどを通して、楽しいひとときを過ごします。



要申込 12/10～1/19
 参加費/大人3,000円、小・中2,500円、幼児2,400円
 定員/50名(申込順)

9:00～17:00 (休)月曜・祝日の翌日、12/29～1/3
 日帰り利用料/90円
 宿泊料/小・中340円、25歳以下670円、26歳以上1,020円



利賀少年自然の家

親子白銀の集い
 【1/11(土)～12(日)】1泊2日
 スノーバレー利賀でアルペンスキー教室や、かんじきハイクなどを通して雪を楽しみます。
 対象/小学5・6年生とその家族
 参加費/大人4,500円、小・中4,000円
 要申込 12/27まで
 定員/60名(申込順)



9:00～17:00 (休)月曜・祝日の翌日、12/29～1/3
 日帰り利用料/90円
 宿泊料/小・中340円、25歳以下670円、26歳以上1,020円



県民会館

北村英治クインテットジャズライブ
 【1/17(金)開演18:30】
 世界的ジャズクラリネット奏者の北村英治を中心とするジャズバンドが華麗でパワフルなステージを繰り広げます。

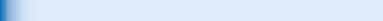


前売 S席3,500円/A席2,000円
 (当日はそれぞれ500円高)
 全席指定
 曲目/すてきな貴女
 イッツ オンリー アペイパームーン
 ムーンライトセレナーデ 他



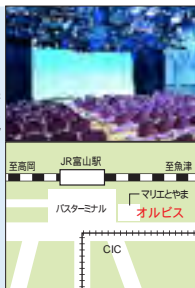
高岡文化ホール

第15回記念 新春フェスティバル
 【1/11(土)、12(日) 9:00～17:00】 12日は～16:00
 高岡文化ホールの文化教室参加者が日ごろの練習の成果を発表します。舞台公演のほか、華道、書道、押し花など多彩な内容です。
 舞台公演/13:00～(12日のみ)
 お茶会/10:00～16:00
 (12日のみ、受付は15:30まで)
 呈茶席/10:00～16:00(受付は15:30まで)
 ミニコンサート/10:00～17:00(12日は15:30まで)
 料 金/舞台公演1,000円、お茶会500円、呈茶席200円



県民小劇場オルビス

舞台芸術・芸能発見ライブ in ORBIS
京舞っておもしろい!
 【1/18(土) 開演14:00、18:30】
 京舞は、伝統と格式に育まれた高い芸術性で多くの人を魅了しています。今回は、新進気鋭の若手舞踊家を招いて、京舞の新鮮な魅力を披露します。



出演/京舞井上流 井上葉子 他
 3,000円(前売・当日とも)全席自由



埋蔵文化財センター

企画展「器 - とやまの食と暮らし -」
 【12/2(月)～3/31(月)】
 とやまの「器」がどのように発達し、人々の暮らしを彩ってきたのかを県内の出土品を通して紹介します。



9:00～17:00
 (休)土曜・日曜・祝日、12/28～1/5 入館無料



近代美術館、水墨美術館、中央植物園、立山カルデラ砂防博物館は土日・祝日の小・中学生、高校生の観覧料、入園料は無料です。